三条市租税教育推進協議会長賞

税について自分が思うこと

三条市立栄中学校　三年　吉原（よしはら）　蒼太（そうた）

「消費税八パーセントから十パーセントに引き上げ」

小学校の頃、消費税が八パーセントから十パーセントに引き上げられる出来事がありました。買い物などをした際に余分に払わなくてはいけないお金が増えてしまって、当時の自分はとても嫌でした。税について当時はよく知らなかったこともあり「なんで、増税しちゃうのかな？」と疑問に思っていました。

税について詳しく知るきっかけになったのは、中学校に入ってからある一つの動画を見たことです。その動画は、もし税金がなかったらどんな生活になるのかというものです。そこから、教育費、医療費が自己負担になることや、警察や救急車などを呼ぶときもお金がかかるとわかりました。税金が全て無くなるのは極端ですが、このことから税金は多種多様な使い方をされてわたしたちの生活に役立っているとわかりました。

次に主な三種類の税について調べてみました。消費税は、物品を販売するときに消費者が負担する税のことです。百円ショップが実質百十円ショップになっているのは、この税のせいです。所得税は、個人の所得に対してかかる税のことです。働いて給与を得たとき、この税によって一部持っていかれます。持っていかれる額は給与の金額によって異なり、多いほどたくさん持っていかれます。法人税は、事業活動で得た所得にかかる税金のことです。主に団体や会社が払います。

次に健康や生活を守る社会保障費や道路や住宅などを整備する公共事業費、教育や科学技術の研究や文教などの科学振興などがありました。他にもたくさんありますが、私たち中学生が実感しやすいものでいうと、教科書や机などに使われている教育費が想像しやすいです。一年間で約百万円もの教育費が税金によってまかなわれているんだなとわかりました。

税金は、よりよい社会をつくっていくためには必要不可欠な制度なんだなとわかりました。自分たちが払った税が、誰かの役に立っていると思うと少し嬉しくなりました。これからは、笑顔で税を払っていこうと思います。ただ、増税をしすぎてしまうと今度は払っている人自身の生活が苦しくなってしまうので、集めた税金の適切なやりくりを国にはぜひお願いしたいです。